

V 臨時的調査研究の概要

本研究への取り組みの可能性を探る予備試験、あるいは情報収集として次の課題を実施した。今後関連する研究への手がかりとなる情報が得られた。

課 題 名	内 容	担 当 者
マツノザイセンチュウ接種時期別のポット苗木枯損状況の確認試験	<p>マツノザイセンチュウ接種時期を秋～冬季にずらした場合は苗木枯損状況を調査し、現行に代わる抵抗性確認方法として採用できるかどうか検証した。</p> <p>その結果、抵抗性マツ苗木に接種した場合、1～8か月経過後の生存苗木からは少量であるがマツノザイセンチュウが分離されることが分かった。25年度も引き続き苗木の枯損状況を定期的に観察し、生存苗木内のマツノザイセンチュウ数の推移を確認することで、現行に代わる接種時期が採用可能かどうか検討する必要がある。</p>	池本省吾
スギ厚板とダボの密度がせん断耐力に与える影響	<p>耐力壁に使用するスギ厚板とダボの材質のバラツキや性能の違いによって、どの程度せん断耐力に差が生じるかが不明なため、相互の密度の組合せがせん断耐力に与える影響を検証した。</p> <p>厚板とダボの密度を上・中・下の3区分して各組合せのせん断耐力を測定した結果、板密度の低い方に最も影響されることが判明した。また、推定式で求めたせん断耐力と測定値との間には高い決定係数が得られたことから、材料のバラツキがせん断性能に与える影響を推定できる可能性が示唆された。</p>	柴田 寛

課 題 名	内 容	担 当 者
高温領域を多用しない構造材の高速乾燥試験	<p>5 日程度の人工乾燥スケジュールで急速乾燥を行う場合、100 度以上の温度領域を使い続ける必要があるが、内部割れが多数発生するという問題がある。そこで、100 度以上の温度領域を出来るだけ使用しないで急速乾燥が可能なのか検証をした。</p> <p>乾燥スケジュールの中でセット時間を 100 度以上の温度領域を使用し、その後は 100 度以下で乾燥を実施した結果、生材での高含水率材を除くと概ね目標含水率に仕上がる事が判明した。しかし、乾燥後の材の表面割れを見ると平均 4,000mm/本の割れが入っており、割れ抑制のための乾燥スケジュールを検討する必要がある。</p>	柴田 寛